

栗野・徒然日記

参帖の式・春

令和二年十一月から綴り始めた「栗野・徒然日記」を、**春(三〜五月)**、**夏(六〜八月)**、**秋(九〜十一月)**、**冬(十二〜二月)**の季節ごとに再編集しました。
栗野の四季折々と日常をつれづれなるままに。

それでは一筆!!

2023.3.1 弥生三月



▲昨日の朝は霜が降りましたが、朝陽に見る見る間に溶けてきました。今朝は見かけません。

「草木がいよいよ生い茂る月」・・・弥生3月。庭の福寿草も一斉に開花しました。

最近捨てる猫が減ったおかげで余り耳にすることは少なくなりましたが、春の兆しとともに発情期の猫の声に眠りを妨げられることも度々ありましたね。猫は、一説には日照時間が14時間以上になると繁殖が盛んになる動物だそうです。しかるに、「猫の恋」は初春の季語、「猫の子」は晩春の季語。妊娠期間は約2ヵ月とのことですから、納得。ちなみに人間にも発情期があるという説もあれば、いつでも発情期との説が混在しています。太古の時代には、食べ物や気候に左右されて発情期があっても当然のような気がします・・・。

それはさておき、2022年の我が国の出生数は79万9728人で、統計開始以来、初の80万人割れとなったと発表がありました。もとより、要因は一つではありません。

昭和50年代、子育てで大変だった自身の経験を振り返ると、家計負担の大きいことが記憶に刻まれています。二人の幼子を保育園に預けると、一人分の給料がほぼ飛んでしまいました。まだ、女性が子育てを担う感覚が社会にはびこっている時代でしたから、退職した後、「なんのために働いていたのか」との悔しい気持ちを引き摺ることとなりました。「保育料が高いと言うけれど、実際に保育業務に要する費用はもっと高いのだ」という感覚がまかり通った時代です。女性の就業に対する社会一般の意識、主婦から見れば就業者との収入の差という不公平感が、公的な子育て支援を拒んだことを否定できないでしょう。

あれから40年・・・半世紀が過ぎようとしています。女性の社会参画など社会環境、社会意識は大きく変化した中、果たして子育て政策はどれほどに進んだのでしょうか。少子化は、若者の人生観だけでは片づけられません。昨日2月22日は、にゃんにゃんにゃんのごろ合わせで「猫の日」ですが、1222年の鎌倉時代以来、800年ぶりのスーパー記念日「スーパー猫の日」だったとか。

2023.3.11 テレビ離れ



▲畑に群生するホトケノザ

テレビ離れが指摘されて久しいですね。スマートフォンの普及が拍車をかけ、NHKが5年ごとに行っている「国民生活時間調査」(2020年版)では、平日の時間帯にテレビを見る国民の割合は平均79%で、5年前の85%から6ポイント減少、更に16~19歳では、24ポイント(71%→47%)と驚くべき数字に。「好きなものを常時視聴できるネット」や「ゲームに費やす時間」に座を奪われているのでしょう。

とは言え、高齢者にとっては、テレビは必需品で、90%以上で近年も変化なし。録画しておけば、好きなものだけ視聴できるし。ということで、録画しておいた古い番組を早送りで見ていると、岐阜市内もロケ場所になったミステリーに出くわしました。2009年6月12日に放映された「浅見光彦シリーズ34 美濃路殺人事件」です。アクティブGや岐阜キャッスルホテルなどが登場。そして何より驚いたのは、犯人役の大和田伸也が住んでいるのが「栗野東5丁目〇番地」(番地名もはっきり)だったのです(ただ、実在した番地ではありませんでした)。巻き戻してもう一度確認しました。撮影協力に名を連ねていた岐阜フィルムコミッションの関係者かな？

さて、私の好きなテレビ番組は、ミステリー、時代劇、バラエティに加えて、近頃お気に入りのものは…「世界！ニッポン行きたい人応援団」、「ポツンと一軒家」、「小さな村の物語イタリア」。考えてみれば、伝統的文化と人の生き様が綴られていることが共通点。イタリアの村をロケ地とする番組では、毎回10年ほどの時を隔てた生活の変化や地域に根差した営みを伝えます。特に、毎回異なる主人公が語る言葉の自然さと奥深さに感動を覚えます。例えば、「恋人の中に好きになった核心を見つけたら、その後は相手に求めすぎてはいけない」、「人生はまさに家です。多くのドアがあり、一つ明けたら別のを開けるのです。でも多くの場合明ける勇気も必要です。ドアはあるのに開けたくない…とか、開かないと思い込んでしまうとか…そんなことはありません、ちゃんと開くんです」、「私たち両親は“港”、子どもたちは“小さな船”です。成長に合わせて船は少しずつ大きくなっていきます。どこかの町で仕事の経験をするのは大歓迎です。でも重要なのは出ていた“船”を喜んで迎えるつもりで、“港”はいつでもここで待っていることです」、「お客がうちの料理目当てだけでなく、村に期待とってくれることが大切です。散策してくれれば村の収入になるかも。私も稼いだら村で使うようにしています。少しは村の経済も動かせるじゃないかな」など、気負いのない人生訓に毎回出逢う。エンディングのナレーションもその日の主人公にささやくように語られる。「どんなに懸命に生きどうにもならない時がある。その悲しみをポケットにしまって、懐かしい場所を歩いてみよう。風がやさしく包み込んだり、雲が大丈夫だとささやいてくれるはずだ」などと、キザに見える言葉も主人公に捧げられる言葉としてしっくりきます。自然に囲まれた村の美しい景観と老若男女、そして猫や犬や羊などの動物をテーマ曲「逢いびき」(まさかの選曲?)が包み込んで流れる。

一人、好きな曲を聴くように、流しておける番組です。

ちなみに、時折放映されるNHKの「新映像詩里山」の“命巡る水辺”の素晴らしい映像は、鮮明に記憶に残る秀作です。

何気なくチャンネルを変えていたら…意外な出会いの幸運、まさに一期一会…それもテレビのメリットです。

2023.3.12 スポーツ観戦



テレビは毎日、WBCに沸いています。オーストラリアに完勝し、予選ブロックを全焼して1位通過通過を決めました。今日は、初回に翔平の3ランが飛び出し、気楽に見ていられましたが、これまで3試合は、3回の裏表あたりまで、ヒヤヒヤする展開。終わってみれば大差で勝利をつかんでいました。この調子で世界一がつかめるか、最強メンバーがそろった今回ですが、さて？

J3に降格して4年目となるFC岐阜のホーム開幕戦、長良川競技場は6,000人余りのサポーターで埋まりました。開幕試合は引き分け。今日は先制したものの、追いつかれ、結果は引き分け。去年は、元日本代表選手を複数名獲得して優勝候補に挙げられたものの、18チーム中14位と低迷。監督も交代しての今季、さて？



▲先制ゴールに歓喜するサポーター。



▶J3降格後は毎年監督が交代しているFC岐阜。今季から、森安ジャパンでコーチを務めた上野氏が監督に就任し、期待がかかる。

2023.3.13 マスク



▲人が集まって雑談しているようにも見えますね。

ツクシが密に顔を出していました…春です。

3月13日から、マスク着脱は個人の判断にゆだねられるように。12日の市内の感染者数は12人(県内69人)と、一時期に比して随分減少しました。油断してはいけませんが、ありがたいことです。マスク着用のおかげもあってか、この間、インフルエンザの流行も抑えられた気がします。マスク着用を義務付けているお医者さんもありますし、まだ当分は様子見ですね。

マスクを外した子どもたちの笑顔が待ち遠しいですね。

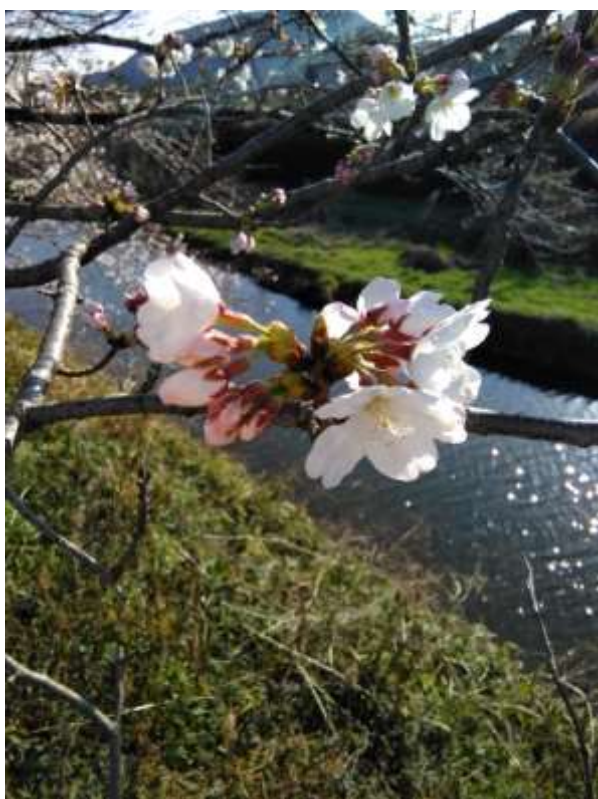


▲スミレも一気に満開に。



▲客はノーマスクで良いのかな？

2023.3.22 サクラサク



気温はぐんぐん上昇し、25度と今年初の夏日になりました。地域の桜も一気に開花し始めました。

WBC、決勝でアメリカを破り、侍ジャパンが優勝しました。昨日のメキシコ戦同様、とても見てられない展開が続きました。最後はピッチャー翔平とトラウトの対戦。カウントはフルカウント。映画でもあり得えないような劇的なお膳立て。空振り三振に取り、日本中が喜びにあふれました。テレビは終日、この話題で持ちきりでした。終わってみれば全勝優勝。

先週18日には、FC岐阜が今季初勝利を挙げました。3戦して引き分けが続きましたが、ようやくの白星。長良川球場は、サポーターの歓声で包まれました。

地域では、老人クラブや体育振興会、子ども会などがランドゴルフを楽しんでいます。

スポーツは、交流を深め、人の心を一つにしますね。



▲今季初勝利を飾った FC 岐阜 (3 月 19 日・長良川競技場)



▲勝利を待ち望んだサポーターの歓声が響き渡りました。

2023.3.30 鶏卵



▲長良川河畔の桜も、日中友好庭園の桜も満開に。山頂には西日を受けて輝く岐阜城。

私が小学生の頃、東北地方の陸の孤島と呼ばれた地域では、末期を迎えて初めて卵を食べさせてもらえる、と担任の先生が話していた記憶があります。真偽のほどは定かではありませんが、寒村の暮らし、そして卵が貴重な食材(むしろ薬)であったことを表しています。

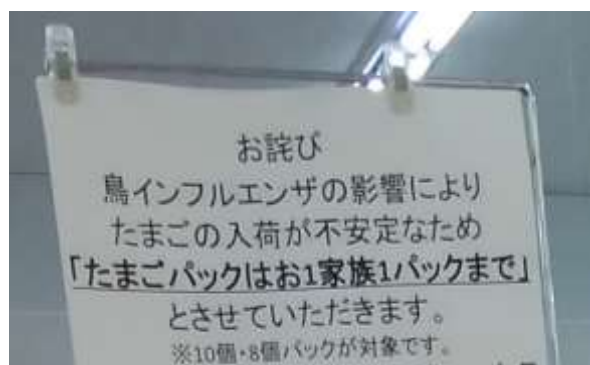
江戸時代には、かけそば1杯より卵1個が高かったと言います。

半世紀以上にわたり物価の優等生(劣等生と言う説も)と言われてきた卵も、ロシアのウクライナ侵略による飼料価格の高騰、鳥インフルエンザによる供給不足が原因で、価格も上昇気味、スーパーやドラッグストアでは、1家族1パックにぎわいもの販売制限。貴重な食材を買いそろえるには、はしごするしかありませんね。

長良川堤の桜も散り始めました。食材やエネルギー価格の高騰の影響もあるのか、コロナ前に比べ露店がめっきり少なく、にぎわいも見られません。

物価の高騰が、庶民の生活やささやかな楽しみも圧迫しているようです。

▶スーパーもドラッグストアも購買制限…。



2023.4.8 宅地化



レンゲが満開です。昭和 29 年に岐阜県の花に選定されました。当時は、秋に種を蒔き、春にすき込んで緑肥にして田植えをしました。化学肥料全盛の今、この地域ではわざわざ播種することは少なくなったと思います。多分こぼれ種でしょうね、休耕田にもちらほらと咲いています。

地域を見回せば、レンゲどころか、田畑が次々と宅地化されています。ここ数年、ますます拍車がかかっています。高齢化や米価の低下、農地の宅地並み課税などが背景にあります。

人口減少の時代に、集合住宅が立ち並ぶ光景は、異常です。半世紀前にスプロール化が都市の大きな課題となっていたにもかかわらず、今なお個人財産が大きな壁になっているとはいえ、コンパクトシティの掛け声にもかかわらず進む郊外部の開発は、市の都市計画はもとよりのこと、地域のまちづくりにとっても、さまざまな課題を提供しています。

2023.4.9 続・宅地化



先日も日記に綴りましたが、宅地化が急激に進んでいます。中心市街地まで8kmほど、多くのスーパーや医療機関にも恵まれ、生活の利便性が後押しをしています。自然景観も変わりつつあります。今日撮影した眉山の手前の農地も、ただいま造成中。一昨年10月の風景と比べてみてください。小学校の近くも家が建ち並び始めました。

見慣れた景色が変わるのは寂しい気もしますが、市街地に住む以上避けられませんね。

毎月定例のまちづくりサロンが16日に開かれ、交通安全をテーマに話し合いました。県道安食

栗野線から山口市に抜ける生活道路の通過交通の現地調査の結果を踏まえつつ、今後の対応について意見交換しました。詳細について投稿記事「[定例のまちづくりサロンを開催しました](#)」にアップされていますのでご覧ください。

地域の課題解決や資源活用は、地域を良くするための協働作業。見て見ぬ不作為・無関心で地域は良くなるどころか住環境を悪化につながることも。自分にできること、特技を生かしてまちづくりに参加しませんか？ 気軽に意見交換し、地域の情報を得る…まちづくりサロンは地域デビューの良い機会になります。毎月第3日曜日午前10時から岩野田北公民館にて開催しています(変更がある時はHPでお知らせします)。



▲わずか1年半で、トップ写真の景観に変化(令和3年10月1日撮影)



◀気軽に参加し意見交換…毎月定例のまちづくりサロン。



◀ラッシュ時の状況調査(4月13日)

2023.4.30 「はるかひまわり」



絵本にもなった「はるかひまわり」の種まきをしました。阪神・淡路大震災が発生したその夏、被災して亡くなったはるかちゃんの自宅跡に芽生えたヒマワリは、救助にあたった近所の藤野さんによって「はるかひまわり」と名付けられました。種をまき、育てる活動は全国に広がり、命の尊さ、絆の大切さ、防災の意義を訴えています。

活動を推進する神戸市の団体「はるかひまわり絆プロジェクト」から、100粒の種を送っていただきました。枚方市のボランティア団体「花いっぱい翠会」さんが公園で育てた、との出生証明書が添えられていました。

今日は、種まき作業の日。朝まで降っていた雨も上がり、集まったみんなでポットにまきました。芽生えた苗は、まちづくり協議会で配布し、希望者や施設で育て、地域に絆とまちづくりの輪を広げていく計画です。秋に採取した種は、また全国へとシェアされて行くことでしょう。



◀岩野田北公民館に集まって種まき作業を行いました。



◀花を咲かせてくれる夏が待ち遠しいですね。

2023.5.10 外来植物は今・・・



いわゆる月見草の仲間が、例年より早く咲き始めている気がします。もともとの月見草は、江戸時代に観賞用として渡来したと言いますが、性質が弱いため、今では見る機会もほとんどありません。マツヨイグサがとって代り月見草の名でよばれることが多いようです。月見草と言えば、太宰治の「富嶽百景」に登場します。この花も実はマツヨイグサだとの説があります。娘二人に写真を撮ってほしいと言われるままに、シャッターを押します。真ん中に富士山を配し、娘二人は外して撮影したというくだりが有名です。実際には、娘二人はちゃんと写真に納まっていたとの後日談を耳にしたことがあります。

マツヨイグサだけでなく、月見草の仲間には数種類ありますが、栗野に見られるのは、このマツヨイグサのほか、背の高いオオマツヨイグサ(富嶽百景の種類と言われます)、アカバナユウゲショウなど。確かコマツヨイグサも夏に見かけた気がします。いずれも外来種で、14種類が帰化していると言います。

さて、これまでも、地域で見られる植物や昆虫たちの外来生物を取り上げてきましたが、真剣に向き合ってきたとは言えません。生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがある外来生物は、法律によって「特定外来生物」に指定され、防除等を行うこととしています。植物は、19種類が指定されています。岐阜県は、このうちのオオキンケイギク、アレチウリ、



◀アカバナユウゲショウが水を張った田に映えます。数センチの小さな花ですが、良く目立ちます。



◀特定外来生物のオオキンケイギク。鳥羽川の種類は八重咲のようです。



▶鳥羽川のオオキンケイギクの植生図。作成後エリアが広がっていました。

2023.5.11 続・外来植物は今…



▲数株ずつ 2 地点で見つかった
ヒサウチソウ。私は初対面。



珍しい植物があったら、外来種と思え…今更、在来種の珍種に出くわすことはまずありません。ここ 10 年ほどの間に、冒頭の写真のナヨクサフジが、勢力を拡大しています。見慣れたカラスノエンドウとは違う、と思った人は多いでしょう。同じマメ科のレンゲのように根粒バクテリアを持ち、土にすき込むと施肥効果が生まれます。蜜もレンゲ以上に採れるとか。更に雑草を寄せ付けられない力が強力であるとも言います。それだけに、在来植物を脅かす恐れがあり、根から引き抜くことを呼びかけている団体もあります(海外では有用植物として重宝しているようです)。

外来種でなく、庭から逃げ出したり、植えられたと思しき栽培種も結構見られます。

無休菊(スパニッシュデージー)は可憐な野草風で、四季咲き。ツルニチニチソウはつる性なので、雑草にも負けず花開いています。カタバミの仲間も数品種見かけました。

外来種や栽培種もそれなりに魅力はある…花との向き合い方は結構悩ましいかも。



▲栽培種も多く見られます。スパニッシュデージーは可憐な味わい。



▲カタバミの仲間のオキザリス(トリアングラリス)の端は濃い紫色。



▲雑草にも負けないハーブは、アップルミント。

2023.5.12 キツネアザミ



昔はよく見かけたキツネアザミ、堤防に数株、まとまって咲いていました。キツネアザミの名は、「アザミに似るも、棘のあるアザミではない。キツネにだまされたよう」。NHKの朝ドラ放送中の「らんまん」の主演、牧野富太郎博士が名付け親とか。

また外来植物のお話しですが、昔見慣れていた草花に代わり、比較的新しく帰化した植物が目立ちますね。堤防には、在来種のおオバコではなく、乾燥に強い帰化植物のツボミオオバコが勢力を拡大。そもそも在来種のおオバコそのものが、畦道でもあまり見かけません。10年単位で、植物の種類の変化が見られるような印象を受けます。

▶乾燥に強い帰化植物のツボミオオバコが在来種に代わって勢力を拡大。



2023.5.14 水辺にそれらしき花の咲く



◀キバナアヤメの右が野薔薇の白い花。

あの鳥羽川で、こんな水辺空間に出逢うことができました。自然が生み出す景観は、人が作り上げた庭にはない、そこはかたない豊かさを感じます。

いつの間に?! 三面張りの鳥羽川の河川敷に、水辺らしい景観が生み出されていました。野薔薇が咲き誇り、黄花アヤメがすっくと起立しています。ヨシの仲間が風に揺れています。残念なのは、河川敷まで草を踏み分けて行かないと気付かないこと。イグサをはじめあまり見かけない植物がポツンぽつんと生えています。そんな中、特定外来種のおオカワヂシャ発見!・・・と思いきや、ちょっと違う気がします。ひょっとすると準絶滅危惧種のカワヂシャでは? しかし見分け方が難しい。調べた結果は・・・続報は後日。

2023.5.26 準絶滅危惧種と特定外来種



▶3~4mmほど小さな花弁はうっすらと紫がかるものの、雄しべの先は紫ではなく白い。

▶葉の縁にくっきりとした鋸状のギザギザが見られます。

見かけない植物が生えていたら、外来種と思え、が近頃ではの鉄則?! 鳥羽川と石田川の合流するほんの一角に、見過ごしてしまいそうな草が小さな花を咲かせていました。スマホで撮影し、フォト機能を使い検索してみるとオオカワヂシャのよう。

外来種、しかもオオキンケイギクと同じく特定外来種とは。ただ、類似種に在来種があるので調査。

花径は外来種より小さい3~4ミリ、葉の縁もギザギザが在来種のカワヂシャにむしろ近い特長が見られます。でもこれだけでは自信が持てません。特定外来種なら除草、在来種なら準絶滅危惧種…これは大きな差です。さっそく、市の環境保全課に写真を送り問い合わせると、3日ほどして回答が届きました。「在来種と思われる」とのこと。専門家の見解も以下のとおり付記されていました。

「全国的には、環境省レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されていますが、岐阜市を含め岐阜県内には多数生育しているため、レッドデータには選定されていません。石田川流域にも多数生育しています。岐阜市内では在来種カワヂシャ、外来種オオカワヂシャともに生育が確認されています。また、岐阜市内でも両種が混生するような場所では雑種のホナガカワヂシャと思われる個体も見つかります。これまでのところ石田川において市の調査でオオカワヂシャは確認されていませんが、今後侵入する事も考えられます。これからもカワヂシャを見守ってください。」

数年後、鳥羽川が、繁殖力が強く、遺伝的かく乱が懸念される交雑種まみれになっていませんように…。

ちなみに、水の中に芽をやれば、準絶滅危惧種のカワヂシャは、確かに、最近見かけません。逆に侵略的外来種のアメリカタリガニは以前、余り見かけなかったのに、結構繁殖しているようです。河川改修も一員なのかもしれませんが、川はこの30年ほどで、様変わりしてしまったようです。